

改めて、「秋入学構想」とは何か？



平成25年7月19日
日本経済団体連合会
夏季フォーラム

1. 秋入学構想提起の背景
2. 秋入学制度の「3点セット」
3. 独楽が回り出した
4. 4ターム（学期）制のメリット
5. 教育内容・方法の改革
～改革「つるべ打ち」
6. 秋入学構想への取組からの経験値

1. 秋入学構想提起の背景

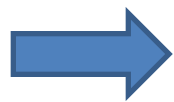
「よりグローバルに、よりタフに」

■ 「グローバル」

たんに、世界について知っているというだけでなく、今まで自分が生きてきたものとは異なる生活やものの考え方、価値観などとぶつかり合い、そうした異質なものを、多様なものを、自分の知力、行動力、想像力の源泉として取り込んでいくこと

■ 「タフ」

いかなる状況の中でも主体的に考え能動的に行動し、そうした姿勢を持続できる精神的なたくましさ



**知的な力をぎりぎりまで鍛えながら、
「よりグローバルに、よりタフに」**

東大の教育理念と重点テーマ

■「東京大学憲章」(平成15年3月18日制定)

(前文)

東京大学はこれまでの蓄積をふまえつつ、世界的な水準での学問研究の牽引力であること、あわせて公正な社会の実現、科学・技術の進歩と文化の創造に貢献する、世界的視野をもった市民的エリートが育つ場であることをあらためて目指す。

(教育の目標)

東京大学は、東京大学で学ぶに相応しい資質を有するすべての者に門戸を開き、広い視野を有するとともに高度の専門的知識と理解力、洞察力、実践力、想像力を兼ね備え、かつ、国際性と開拓者的精神をもった、各分野の指導的人格を養成する。

■「行動シナリオ FOREST2015」(平成22年3月策定)

重点テーマ2 グローバル・キャンパスの形成

重点テーマ4 「タフな東大生」の育成

※ その達成に不可欠な学生構成の多様化

学内検討会議が指摘した「学生をめぐる課題」

- 何のために学び、学んだ成果を何に活かすのかという動機付けの不足
- 学習態度の受動性、点数至上の価値観への偏りの傾向
- 主体的な思考・課題発見能力・課題解決能力の不十分さ
- 表現力・交渉力・討議力などの不十分さ
- 英語力・国際コミュニケーション力の不十分さ
- 社会や世界との交流体験・グローバルな視点の不十分さ

学部学生をめぐる現状① (属性の多様性)

【1. 性別】

- 平成25年度学部入学者に占める女子学生比率は18.8% (594人)
- 平成25年度学部在学者に占める女子学生比率は18.4% (2,584人)
- 国内平均(43.0%)を大きく下回り、海外有力大学と比べても大幅に低い

※ 東京大学の行動シナリオFOREST2015:

(達成目標)2020年までに女性比率30%の達成を目指す。

【2. 出身地域】

- 平成25年度学部入学者に占める関東地方出身者比率は54.8%
- 三大都市圏 (東京圏・名古屋圏・大阪圏) 出身者比率は69.2%
- 東京都出身者比率は34.4%

【3. 国際性】

- 平成25年度学部留学生の学部学生全体に占める比率は2.0%
- (学部・大学院留学生の全体に占める比率は10.4%)

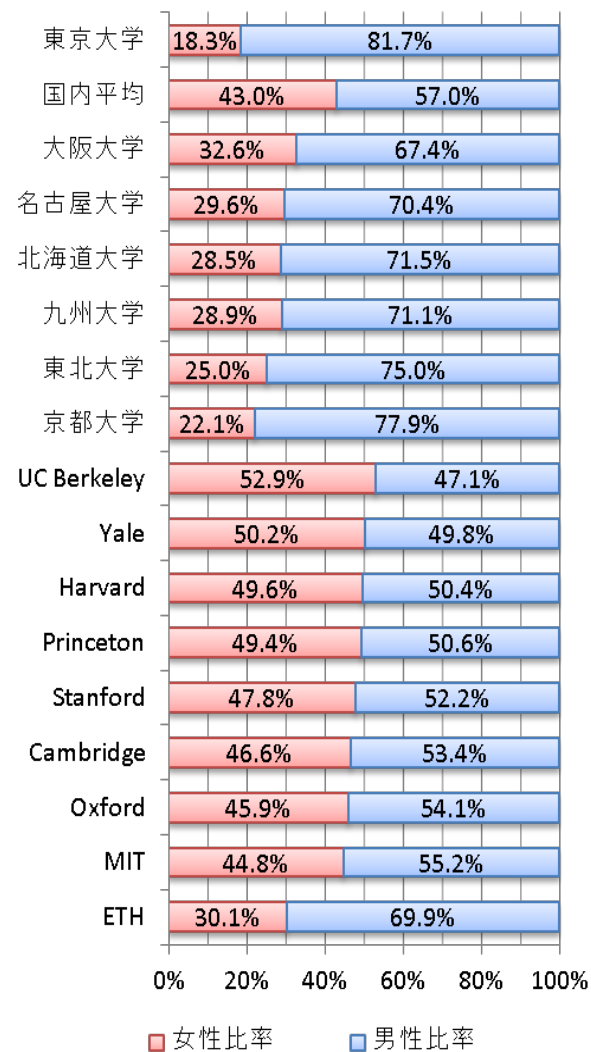
※ 東京大学の行動シナリオFOREST2015:

(達成目標)2020年までに留学生(学部・大学院)比率12%以上の達成を目指す。

【4. 世帯年収】 ※平成22年度学生生活実態調査による

- 世帯収入が950万円以上の学部学生が51.8%
- (世帯の平均年収は1,167万円)

(参考) 学部学生数に占める女子学生の割合



東京大学調べ

出典:各大学のウェブサイト (国内大学は平成24年度。海外大学はStanford(平成24年)を除き平成23年のもの)。

学部学生をめぐる現状② (国際流動性)

■ 海外留学(平成25年5月現在)

学部:91人(0.6%) 大学院:338人(2.5%)

■ 留学生の受入れ(平成25年5月現在)

学部:279人(2.0%) 大学院:2,633人(18.9%)

■ 10月入学実施状況(平成24年11月現在)

- ・教養学部において学部段階で初めての秋入学を開始(入学者27名)
- ・大学院では10月入学を導入済み(入学者全体の9.7%)

■ 学生の留学への意欲(学生へのアンケート)

「積極的に留学したい」32%(学部4年生)*1

「交換留学制度があれば留学したい」72%(大学院学生)*2

■ 留学の阻害要因(学部4年生へのアンケート)*1

「大学の年間スケジュール」35%

「大学院・就職試験」29%

「経済的な問題」28%

「語学力の問題」21%

【出典】

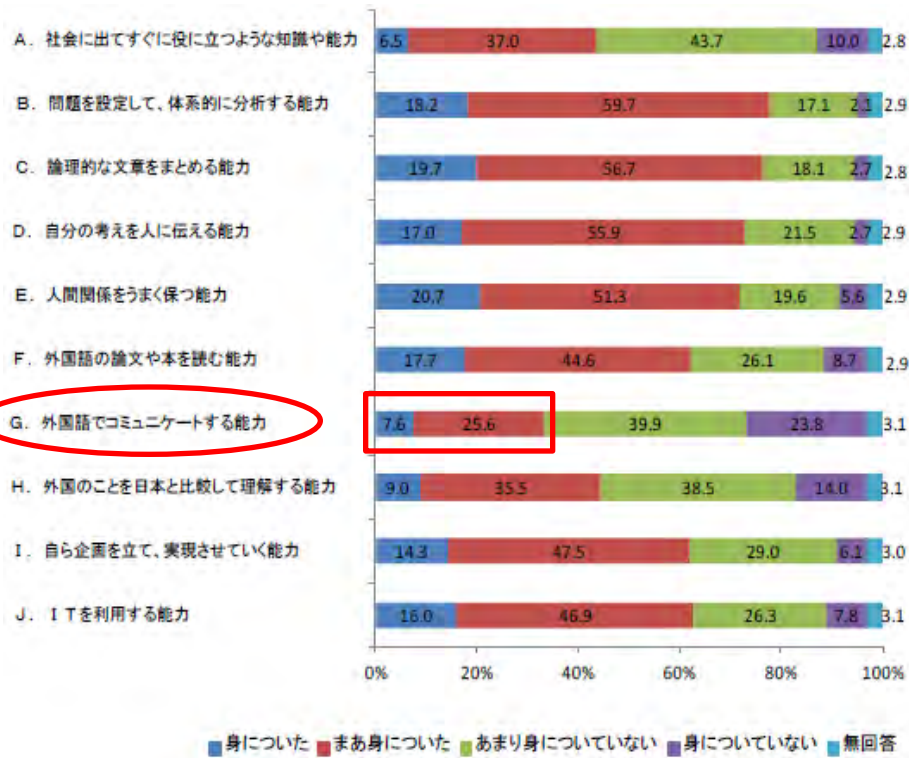
*1 平成24年度大学教育の達成度調査

*2 平成23年学生生活実態調査

学部学生をめぐる現状③ (コミュニケーション能力)

コミュニケーション能力(外国語)

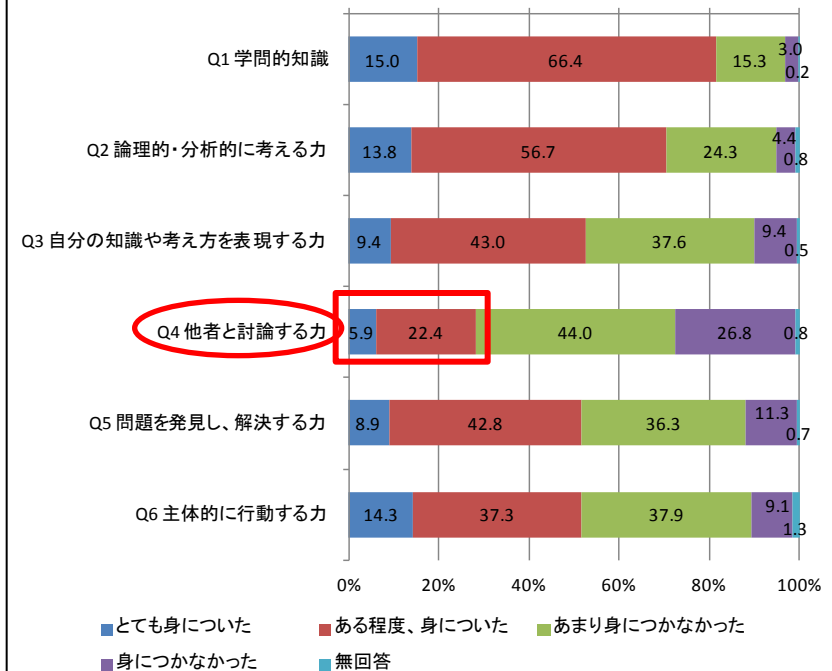
- あなたは、大学時代を通じて、以下のような点を身に付けたと思いますか。



出典:平成24年度大学教育の達成度調査
 調査時期:平成25年3月
 調査対象:学部卒業生3,089人。有効回答数2,524票
 (回収率:81.7%)

討議力

- あなたは教養学部での学習を通して、以下のような知識や力がどの程度身についたと思いますか？



出典:教養教育の達成度についての調査
 調査時期:平成25年3月
 調査対象:学部前期課程修了生全員。有効回答数約593票
 (回収率:全体の18.4%)

秋入学構想の目標

教育的目標

学生の主体性、能動性、グローバル、流動性、
多様性の実現

社会的目標

こうした学生を育て生かす社会環境の実現



社会のシステムや意識の変革

2. 秋入学制度の「3点セット」

秋入学制度の「3点セット」

- ① 国際水準の（世界の多くの大学と整合性の高い）
学事暦
- ② 国際水準の（世界の有力大学と競争できる）
教育内容・方法
- ③ 国際水準の（世界の変化に柔軟に対応できる）
社会環境

3. 独楽が回り出した

「総合的な教育改革」へ

「思い切った取組を、逐次であれ すみやかに実行」

「秋入学構想の実現に向けた重要なステップ」



4ターム（学期）制

+ 教育の内容・方法にかかわる全学的な教育改革

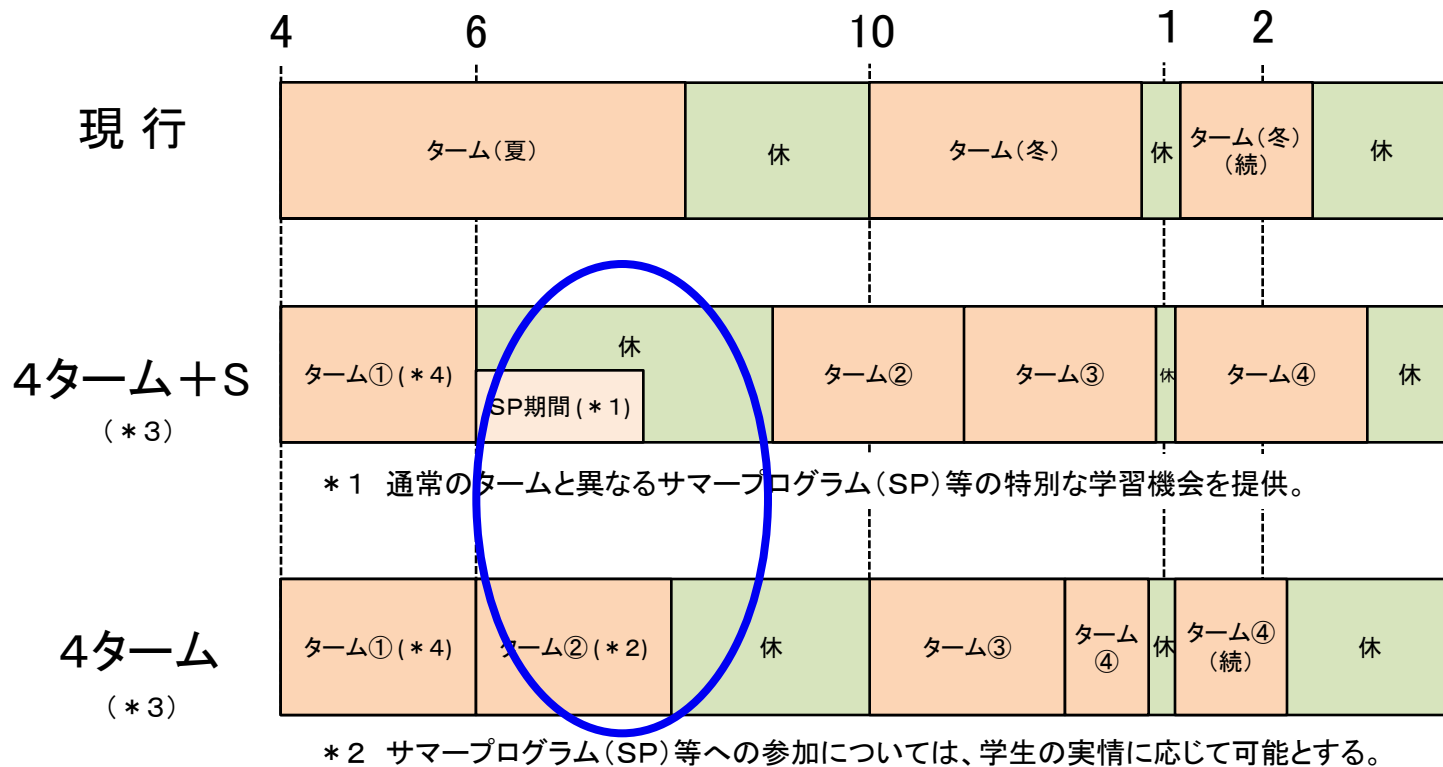
4. 4ターム（学期）制のメリット

海外大学の学事暦との比較

		1月					2月				3月				4月				5月					6月				7月				8月				9月					10月				11月					12月												
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
	東京大学(現行)2010年度 (2010年度駒場の学事日程をもとに作成)										①4/7-7/16																		②10/6-1/31																																	
米	イエール大学	②1/9-4/23																						①8/31-12/2																																						
米	UCバークレー	②1/10-5/11																											①8/18-12/16																																	
カナダ	トロント大学	②1/2-3/30																															①9/6-11/28																													
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)	②1/4-4/5																															①9/6-12/2																													
英	ケンブリッジ大学	②1/17-3/16													③4/24-6/13																		①10/4-12/2																													
英	オックスフォード大学	②1/15-3/10													③4/22-6/26																		①10/9-12/3																													
濠	オーストラリア国立大学(ANU)						①2/20-6/1																	②6/23-11/2																																						
シンガポール	シンガポール国立大学(NUS)	②1/9-5/5																															①8/1-12/3																													
中国	北京大学						②2/21-6/26																										①9/6-1/16																													
韓国	ソウル国立大学(SNU) 2011年度						①3/2-6/15																										②9/1-12/15																													

標記等について:①②③はそれぞれ第1、第2、第3学期を指す。赤帯は試験期間(赤帯がない場合は授業期間中に実施)。年度の記事があるものを除いて2011-12年度のデータを使用。

学事暦見直し(4ターム化)の運用形態の例



(以下、4ターム化に共通)

- *3 特別休学制度の活用等によるギャップターム型運用や、教育上の特性に応じた複数タームにわたる科目開設も可能。
- *4 初年次における「ターム①」においては、点数至上の価値観のリセット、大学での学びを俯瞰するための導入教育を重点的に実施。

4ターム制のメリット

■ 学生・教員の国際流動性の向上

夏季休業期間および授業の開始・終了時期を国際標準に近づけ、夏季および学期単位で、学生の留学・教員の国際学術交流を促進。

■ 学びの質の向上・量の確保

- 週複数回授業による学習の集中度強化
- 短期完結型の科目導入による履修の自由度向上
- 長期休学期間の選択的拡大に伴う社会体験等の機会の充実

5. 教育内容・方法の改革

～改革「つるべ打ち」

学部教育の総合的改革に係るアクションリスト

— ワールドクラスの大学教育の実現に向け、今取り組むべきこと —

改革の原則・方向性	中期目標・計画期間中（平成27年度末まで）の取組
I 学びの質の向上・量の確保	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生をしっかりと学ばせる仕組みの確立（学習総量の確保、成績評価の厳格化、GPA活用による学習支援、キャップ制の導入、週複数回授業の普及など） ■ 教育方法の改善に対応するFD活動の推進（TA制度の改善、「フューチャー・ファカルティ・プログラム（FFP）」の確立を含む） ■ 学びの質を向上し、量を確保する観点からの学事暦の見直し（4ターム化に伴う授業形態の変更など）
II 主体的な学びの促進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 点数至上の価値観のリセットを目指した全学的な導入教育の強化 ■ 「教え授ける」（ティーチング）から「自ら学ばせる」（ラーニング）への転換を目指した授業の改善（少人数チュートリアル授業の導入、アクティブラーニングの普及など） ■ 学生の主体的な履修を支えるカリキュラムの柔軟化（進学・卒業の要件の見直しを含む） ■ 習熟度別授業など能力・適性に応じた教育の普及・展開（科目ナンバリング制の導入を含む） ■ eラーニングの積極的な活用による教育方法の改善
III 流動性の向上と学習機会の多様化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様性に富む学習環境をつくる「グローバル・キャンパス」の実現（英語による授業、外国人教員、PEAK^[1]・AIKOM^[2]等の国際プログラムや全学交換留学制度の拡充など） ■ 高度なトライリンガル人材を育成する「グローバルリーダー育成プログラム（GLP）」の構築と展開 ■ サービスラーニングの導入、ならびに「初年次長期自主活動プログラム（FLY）」の定着とその成果の普及（学士課程全体を通じた特別休学制度の活用の検討を含む） ■ サマープログラムの開発等による多様な学習体験の機会の飛躍的な拡充 ■ 海外大学等との互換性、学生・教員の国際流動性を高める観点からの学事暦の見直し（タームの分割、夏季休業の拡大など）
IV 学士課程としての一体性の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学での学びを俯瞰する全学的な導入教育の強化 ■ 学士課程の一貫性の観点に立ったカリキュラムの順次性・体系性を見直し ■ 評価尺度の多元化の観点に立った後期課程進学制度の構築 ■ 全学に開放された共通授業科目制度、部局横断型教育プログラムの普及と展開
V 教育制度の大枠の改善	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な学生構成の実現と学部教育の活性化を目指した推薦入試の導入 ■ 社会の変化を踏まえた入学定員の適正な規模・構成の提示（所要の組織体制の見直しを含む） ■ PEAKの充実を図りつつ、秋季入学の環境整備に向けた社会への働きかけ、他大学との連携協力の強化 ■ 学部・大学院の一貫的な教育プログラムの研究開発、ならびに優秀な学部学生が大学院レベルの学習にアクセスする機会の拡大（早期卒業制度の導入、科目履修の弾力化など）

[1] Programs in English at Komaba; 教養学部英語コース

[2] Abroad in Komaba; 教養学部交換留学制度

教養学部の改革提案

- 4ターム制の導入・履修形態の柔軟化による国際流動性の向上
→年間300～500人規模で海外大学のサマースクールや交換留学へ
- FLYプログラム（初年次長期自主活動プログラム）を半年単位でも運用
- 少人数チュートリアル授業を初年次に導入
- 習熟度別授業科目の導入による、意欲ある学生の能力のさらなる伸長
- 短期留学生の受け入れ拡大、秋入学学部プログラムの拡大
- 外国語を母語とする教員の2倍増、外国語による授業を3倍増
- 双方向型授業の大幅増加と「後期教養教育」科目の導入

詳細は東京大学教養学部ウェブサイトに掲載 (<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/important/1.shoshin.pdf>)

■ 目的・趣旨等

入学直後の学生が、通常の大学生活の開始に先立ち、社会における主体的な活動を長期間体験することを通じて、従来の意識・価値観を相対化しつつ、大学での学びの意義・目的を自ら確認・発見できる途を拓く。

※ 学生は1年間の休学を取得

■ 経済的な支援

本プログラム採用者に対しては、有意義な活動への積極的な取組みを支援する観点から経費の一部を支援。
(上限額50万円)

■ 参加状況

平成25年度は11名(男性9名、女性2名)が海外を中心に活動中。

活動地域	活動の種類例	活動のテーマ例
アジア(インド、マレーシアなど)	海外語学研修	語学を磨き、同時に建築学にも触れるためにドイツの大学に約半年滞在し学ぶ。
オセアニア(オーストラリア)	海外ボランティア	海外でのボランティア活動や旅行を通じて、異文化や国際社会への理解を深め、外国語によるコミュニケーション能力を高める。
北米(アメリカ、カナダ)	海外就労体験	
ヨーロッパ(イギリス、フランス、ドイツなど)	海外サマースクール	海外での長期滞在中の異文化交流と日本文化の再認識。
国内(東北地方)	国内ボランティア(震災復興支援、医療分野)	

■ 後援団体

産業界11団体、非営利団体4団体、公的機関(文部科学省)の計16団体。

詳細は東京大学教養学部ウェブサイトに掲載(<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/academics/fly/index.html>)

短期体験活動の推進

<「体験活動プログラム」>

学部前期・後期課程の学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式または価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを実施(平成24年度開始)。

■平成25年度計画の概要

夏季休業期間に1週間程度のプログラムを中心として実施。

	プログラムの例	募集人数	<参考> 平成24年度実績
国内での活動 (全51プログラム)	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験と漁業体験 ・障がいという個性に触れよう ・復興まちづくりの業務体験 ・陶板複製名画美術館を体験する 以上の他47プログラムを実施	約390名	全34プログラム 募集人数:385名 (参加人数:90名)
海外での活動 (全24プログラム)	<ul style="list-style-type: none"> ・オーガニック牧場での Sustainable agriculture 体験 (アメリカ) ・フランス中世のゴシック大聖堂の実施調査 (フランス) ・新興国インドでのマーケティングリサーチ (インド) 以上の他21プログラムを実施	約170名	全13プログラム 募集人数:79名 (参加人数:86名)
学内での 研究室体験活動 (全39プログラム)	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物バイオテクノロジー体験 ・知能移動ロボットの行動と制御 ・ラボで宇宙プラズマを体験する 以上の他36プログラムを実施	約170名	—
計(全114プログラム)		約730名	全47プログラム 募集人数:464名 (参加人数:176名)

<その他の取組>

JICA(国際協力機構)と連携し、学部前期・後期課程の学生を対象としてネパール、スリランカ、タンザニアにおける約1ヶ月間の短期ボランティア派遣プログラムを実施(平成24年度に開始し、同年度には約30名が参加)。

PEAK *-Programs in English at Komaba-*

教養学部開設された英語による授業科目のみからなる学位プログラム。平成24年10月(秋季入学)から開始(初年度入学者27名)。

■ プログラムの構成

前期課程 「国際教養コース」(International General Education Program)
(1年、2年)

後期課程 「国際日本研究コース」(International Program on Japan in East Asia)
(3年、4年) 「国際環境学コース」(International Program on Environmental Sciences)

■ 基本的に初等・中等教育を日本語以外で履修した学生を対象とし、書類と面接審査によるアドミッション・オフィス(AO)入試により選抜。

The University of Tokyo

PEAK Programs in English at Komaba

In October 2012, the University of Tokyo, one of Asia's top universities, will launch new undergraduate (B.A.) degree programs in English.

- Courses Taught Entirely in English
- Study "Japan in East Asia" Or "Environmental Sciences"
- Learn Japanese
- Liberal Arts Curriculum
- Live in the Exciting City of Tokyo

Give it all you've got on the international stage!

- Tuition: 535,800 yen annually (approx. US\$7000)
- Excellent Merit-based Scholarships:
 - Four-Year Scholarship** (up to 10 students)
Pays for enrollment fee and tuition, and provides a monthly stipend for four years
 - Freshman Scholarship** (up to 10 students)
Pays for enrollment fee and tuition, and provides a monthly stipend for one year
 - Corporate Scholarship** (up to three students)
Awards a 50,000 yen monthly stipend for four years

Follow us on:
f t at "Todai_PEAK"

For further details and application guidelines:
<http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/>

PEAK

詳細は東京大学教養学部ウェブサイトに掲載 (<http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/>)

目標：東大発グローバルエリート育成の選抜的展開

1. 前期課程における英語カリキュラムの高度化

- ALESS*とALESA** (英語による科学、教養のアクティブラーニング)プログラムの樹立
- 少人数習熟度別授業の導入。上位10%のグループ(約300名)では、クラス定員を25～30名程度とし、授業はすべて英語で行う

2. 前期課程におけるトライリンガル人材育成

- 高い英語能力を有する学生を対象とした日英中トライリンガル・プログラム(TLP)を開設
→ 中国語圏を対象とするサマープログラムの実施、毎年学生を派遣

3. 後期課程における横断型教育プログラムの実施と海外留学

- 全学から意欲ある卓越した学生を選抜して、英語によるグローバル教養とグローバルな課題に対する問題解決力の育成を主眼とした部局横断型教育プログラムを実施
→ 毎年約100～200名が英語の海外プログラムに参加(サマープログラムの共創)

*ALESS: Active Learning of English for Science Students

**ALESA: Active Learning of English for Students of the Arts

平成25年度は、海外大学との連携の下、以下のような国際サマープログラムを展開。

<主な例>

- University of Tokyo Research Internship Program
(米国、英国、中国、韓国、インド、シンガポール等の大学との連携)
- Summer School on Laboratory, Space and Astrophysical Plasmas
(プリンストン大学等との連携)
- Innovators Marketplace on Engineering Knowledge
(米国・中国等の大学との連携)
- Todai Innovation Summer Program 2013
(アールト大学との連携)
- Japan in Today's World (IARU^(※) Global Summer Program)
(世界トップクラスの10大学との連携) ※*International Alliance of Research Universities*
- Understanding Taiwan in Global Settings: Invitation to Active Fieldwork
(国立台湾大学との連携)
- Understanding Asia and Japan through Hong Kong
(香港大学との連携)
- The 2013 University of Tokyo – University of Hawai'i Summer Residential Institute in Comparative Philosophy
(ハワイ大学との連携)

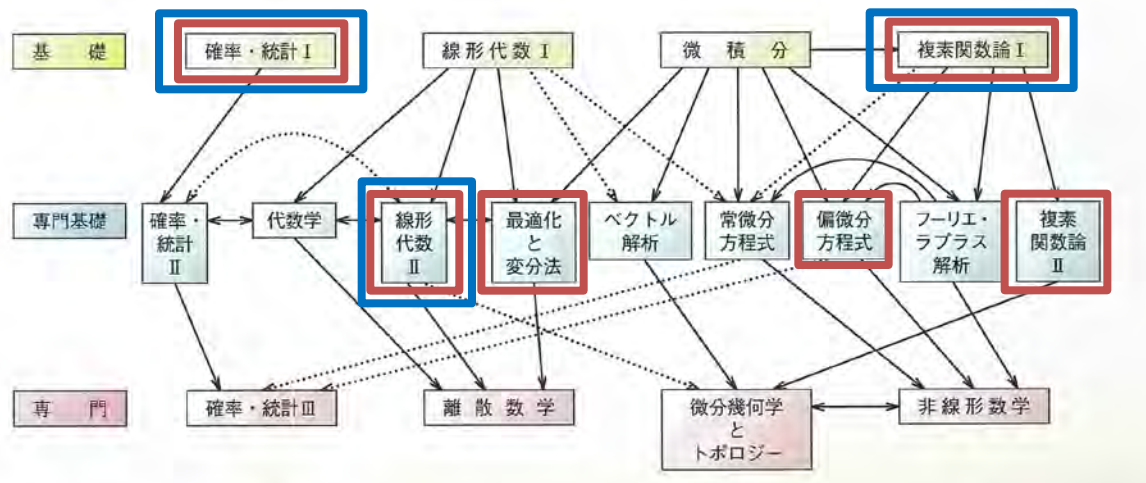
「工学教程」の編纂

時代に左右されない工学知の教授方針として、「工学教程」を作成(平成24年3月に最初の3巻を刊行)。

- 学生が習得すべき内容を明記し、学生自身が学ぶべき全体像を見通しがきくようにする
- 工学部・工学系研究科のスタンダードとして、教員が学生を指導すべき内容も具体的に示す
- 従来型の「分かりやすい教科書」や実務家向けの教科書とは一線を画す



数学分野17巻の構成 □ 刊行済 □ 英語版刊行済



数学編全17巻のうち6巻が刊行済、試用中。3巻は英語版も刊行済。

- 今後2年で、「数学」「物理学」「化学」51巻を刊行
- 英語化作業も同時進行
- 「情報」「材料力学・構造力学」「流体力学」等の分野の教程を順次刊行予定

東京大学の教養教育を担う先導的教育施設(平成23年5月に完成)。従来の講義棟にはない進化した教育環境の提供および自習やコミュニケーションに活用できる多目的な空間の充実により、学修支援の高度化を目指す。

<学びの特長の例>

- ICT(※)を活用したアクティブラーニングの推進のため、8つの「スタジオ」と呼ばれる教室を設置。
 - 収容人数30～50名。
 - 可動式の机・いす、壁一面のホワイトボード、プロジェクター、ディスカッションボードを設置。
 - 身体運動・表現を取り入れた授業のため床をフローリングしたスタジオや、タブレットノートPCを60台設置したスタジオを設置。
- 滞在型の学びの推進
 - 開放的なラウンジ、イベントホール、カフェテリア等を用意し、学生同士の議論や教員への質問の場、自習等のスペースとして活用。

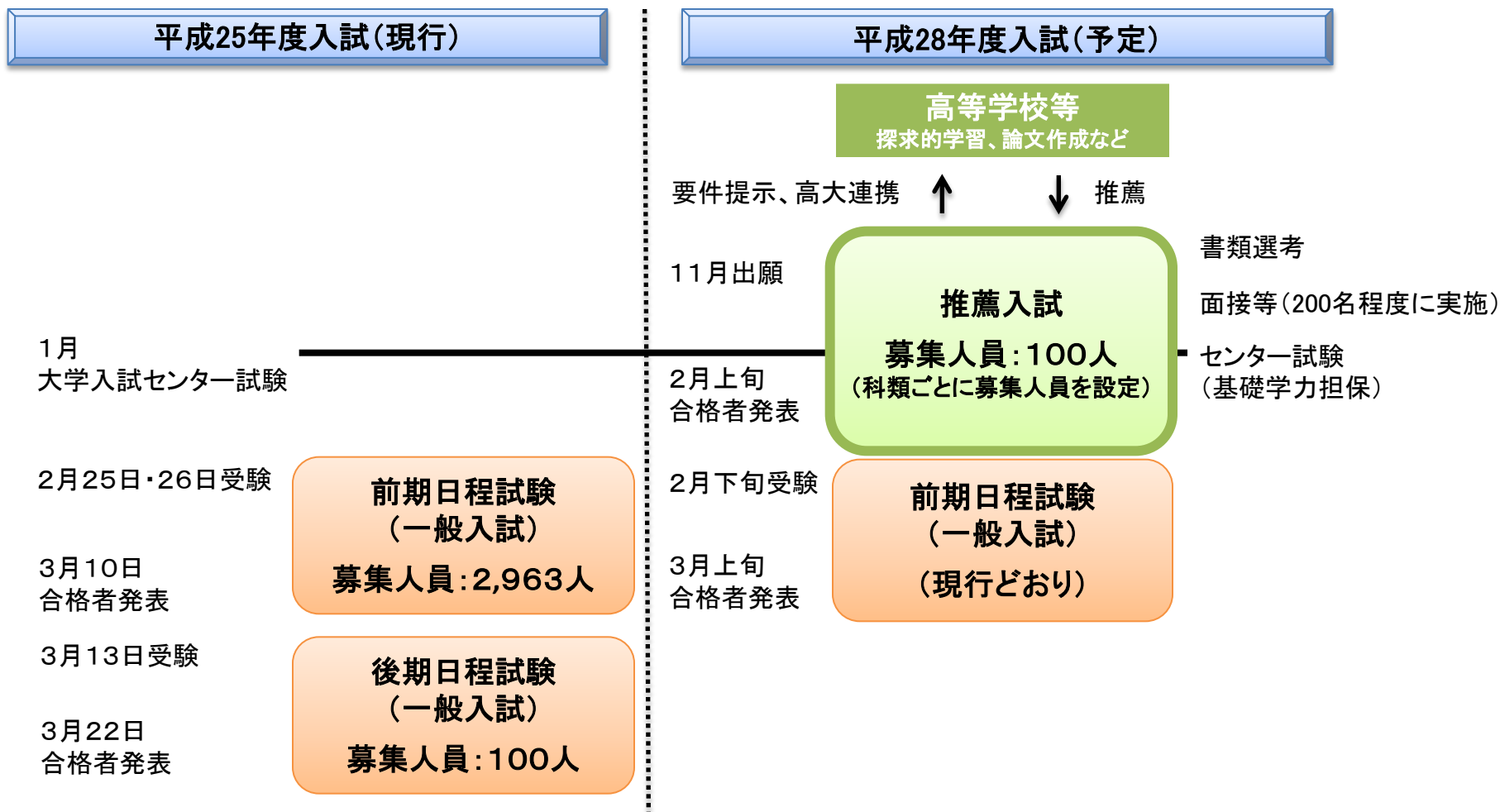


(※)Information and Communication Technoloby の略。ITとほぼ同義で、ITよりも「コミュニケーション=通信」という観点に重きを置く概念のこと。

詳細は東京大学教養学部ウェブサイトに掲載 (<http://www.komcee.c.u-tokyo.ac.jp/>)

推薦入試の導入

入学者の選抜方法・尺度を多元化し、高等学校等での学習成果を適切に評価する観点から、基本となる前期日程試験を維持しつつ、後期日程試験の後継として推薦入試を導入する予定（平成28年度から）。



6. 秋入学構想への取組からの経験値

秋入学構想の実現に向けた課題

- 国家資格試験制度の時期等の見直し、企業の採用時期・方法等の柔軟化
- ギャップタームへの理解、活動機会の確保
- グローバル化を先導しようとする諸大学の連携

産業界の支援に感謝

～さらに具体的・継続的な連携へ

大学連携の難しさ

～高等教育の国家戦略との連動

「森を動かす」～今こそ始まり

- 「改革つるべ打ち」で、個別の実績を上げる
⇒経験値を高める、大学や社会の意識を変える
- しつこさ～「タフ」さ。
素早く、根気よく、ポイントを稼ぐ
- 議論・評論は終わった。
「参加する」こと、「やってみる」こと